

《第 32 号》「すみ続けたい地域づくりの地道な活動」

五十嵐ちづ子(多摩の暮らしを考えるコンシューマーズ・ネットワーク事務局)

多摩の暮らしを考えるコンシューマーズ・ネットワークは、設立当初から環境問題をひとつの柱として活動を続けてきました。

特に、多摩地域市町村にとって切実な問題であった「ゴミ」には早くから取り組み、最終処分場、ダイオキシン、家庭ごみ有料化、そしてエコセメント化等の問題に接し、それらを学習し考えていく中で、「拡大生産者責任」を明確にしない限り真の「ゴミ問題」の解決はないと考えるに至っています。

また、大気汚染問題にも恒常的に取り組んできました。鉄道貨物がトラックによる物流に変化し自動車による大気汚染がひどくなるに従い、多摩地域にもそれが広がっていきました。公共交通が少なく自動車に頼らざるを得ない市民も多い多摩では、早くから排ガス規制の強化を行政に要望し、企業には環境への負荷の少ない自動車の開発を望むという活動を続け、それが実現しつつあることは、一つの成果だと思っています。

食の分野でも、環境保全の視点を持ち、「食品リサイクル」「地産地消」の広がりを進めています。特に最近、食品の安全供給の面から注目されるようになった地場産品については、フー時・マイルージが極めて低いという点、農地・農家の緑地が環境に好影響を与えるという点に焦点を当てた、多摩地域だからこそ展開できる活動に取り組んで行こうと考えています。

日々の暮らしの中でコツコツ続ける取り組みの積み重ねが大きく社会を変えていくのだと思います。いつまでも住み続けたい多摩地域にするために、今後も活動を続けていきます。

以上